

神社の社(十六)

『セッコク』

御岳ピジターセンター

片柳 茂生

少し先の話になりますが、六月の中旬に表参道の杉並木を彩るきれいな花があるのをごぞんじですか。セッコクというラン科の植物です。

梅雨の最中、しかも樹上に咲くので普通に歩いていたのでは目にあまり止まりません。しかし、少し足を

止めて幹から張り出した太い枝を眺めれば、そこには白い花がたくさん咲き、枝を飾っているので容易に気がつくはず



イラスト 井口三月

滝本駅近くの大きな杉の木にはたくさんついていますが、登って行くに従って数は少なくなり、中腹から上では完全に姿を消してしまいます。山の人はセッコクのことをモッコクと言っています。しかし、モッコクという名の植物は別に

存在し、しかもセッコクとは似ても似つかない植物なのです。ツバキ科の常緑高木で暖かい地方に生えている木であるモッコクが御岳山にあるうはずありません。

セッコクは「石斛」と書きセッコクがまったものです。森林内の岩上や老木に着生する植物です。

御岳山では杉の木に着生しているので、石に対して木の意でモッコクと呼ぶようになってしまっ

たのでしょうか。セッコクとモッコク何とも紛らわしい名です。またセッコクは、昔から健胃や強壮に効く薬草として用いられ、スクナヒコノクスネとかスクナヒコグスリといった名で呼ばれていました。スクナヒコとは武蔵御嶽神社の御祭神である少彦名命のこと、クスネは薬根

節黒仙翁



イラスト 神田忠良

フシグロセンノウは、樹陰や草におおわれた草原など、湿度のある涼しい場所に生育します。ナデシコ科の多年草で、茎の高さは50〜70cm位、立ち節が紫黒色で、京都仙翁寺によく見られたのでその名がついたといわれています。花は盛夏から秋にわたり先端から次々に開花し、五弁の上品な朱赤色の花が長い期間咲き続けます。御嶽の遅い春は、三月お彼岸過ぎのマンサクの花から始まりカタ

の意です。すなわち少彦名命の薬ということ。植物の名前に神様の名がついているのですからとてもよく効く薬草だったのでしようか。これらの古名はいつの間にかすたれてしまい漢名の石斛を音読みで現した呼び名になったようです。

あ と が き

近年山上の道も徐々に改修され、許可車両だけではなく軽自動車も通行するようになりました。車の運行には安全を第一にしておりますが、参拝の方もお気を付けいただけたらと思います。神社の間近まで車で上がれるようになりましたので、足が弱くなったけれどもまた参拝したいと思われの方は、御師に相談されるとうまいかと思えます。金子千待先生、齋藤慎一先生には、玉稿を賜り誠にありがとうございました。

平成十三年三月八日発行
 (年二回発行・非売品)
 編集 武蔵御嶽神社
 印刷 (株)成和印刷
 表紙写真 鈴木新吾